

令和 8 年第 2 回田野畑村議会定例会会議録（第 2 号）									
招 集 年 月 日		令和 8 年 2 月 1 0 日							
招 集 の 場 所		田 野 畑 村 役 場							
開 閉 会 日 時		開 会 令和 8 年 2 月 2 4 日				議 長	鈴 木 隆 昭		
		閉 会 令和 8 年 3 月 1 3 日							
応（不応）招議員 及び出席議員並び に欠席議員 出席 8 名 欠席 1 名		議席 番号	氏 名		出席 等別	議席 番号	氏 名		出席 等別
		1				6	工 藤 求		出
		2	上 村 浩 司		出	7	佐々木 芳 利		出
		3	小 野 協 次		出	8	佐々木 伸		出
		4	中 村 勝 明		欠	9	佐々木 功 夫		出
		5	畠 山 智		出	1 0	鈴 木 隆 昭		出
会議録署名議員		6	工 藤 求			7	佐々木 芳 利		
職務のため議場に 出席した者の氏名		事務局 局長	佐 藤 智 佳	主任 主査	畠 山 哲				
地 方 自 治 法 第 1 2 1 条により 説明のため出席 した者の職氏名		村 長		佐々木 靖		教 育 長			
		副 村 長		工 藤 光 幸		教 育 次 長		佐々木 修	
		総 務 課 長		大 森 泉					
		企画観光課長		工 藤 隆 彦					
		特定政策推進室長		菊 地 正 次					
		会 計 管 理 者 税 務 会 計 課 長		早 野 和 彦					
		住 民 生 活 課 長		横 山 順 一		総 務 主 査		角 舘 尚	
		地 域 整 備 課 長		平 坂 聡		住 民 生 活 主 査			
		産 業 振 興 課 長		佐々木 賢 司		地 域 整 備 主 査			
		健 康 福 祉 課 長		佐 藤 和 子		地 域 整 備 主 査			
		診 療 所 事 務 長		佐々木 和 也		健 康 福 祉 主 査		畠 山 多加子	
		企画観光課主幹		大 澤 健		教育委員会事務局 主 任 主 査		工 藤 真 樹	
		特定政策推進室 主 幹		畑 山 讓		教育委員会事務局 主 任 主 査		三 上 恵 美	
議 事 日 程		別紙のとおり							
会議に付した事件		別紙議事日程のとおり							
会 議 の 経 過		別紙のとおり							

令和 8 年第 2 回田野畑村議会定例会会議録

議 事 日 程 （第 2 号）

令和 8 年 3 月 6 日（金曜日） 午前 1 0 時 0 0 分開議

	開 議
日程第 1	一般質問
	散 会

◎開議の宣告

○議長【鈴木隆昭君】 ただいまの出席議員は８人であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

(午前１０時００分)

◎議事日程の報告

○議長【鈴木隆昭君】 日程に従い進行します。

◎一般質問

○議長【鈴木隆昭君】 日程第１、一般質問を行います。

一般質問は、通告順に従ってこれを許します。

８番、佐々木伸君。

〔８番 佐々木 伸君登壇〕

○８番【佐々木 伸君】 おはようございます。議席番号８番、佐々木伸です。

初めに、２月２４日の令和８年度施政方針を聞き、これからの田野畑村の未来がかかる新庁舎建設については、防災施設や避難所整備等に関連し、数行しか盛り込まれていなく、新庁舎建設は関連ではなく、構造的領域ごとの将来像実現に向けた各種施策の７つの項目に入れて、新庁舎建設を含め、村のビジョンを示すべきと思う。また、産業では第三セクター、生活交流では福祉、地域コミュニティの施策や方針がないのはなぜか。これらを含め、通告に従い一般質問を行います。

初めに、産業について３点４項目、村政運営について２点５項目の一般質問を行います。この質問の項目及び内容は、村民の方々からの要望や意見に基づくものであり、明確にお答えいただきたいと思います。

産業振興について、１、道の駅たのはた思惟の風の管理運営について、(１)、思惟創館の直近３年の利用状況、管理運営の状況を具体的な数字で示してほしい。

(２)、インターチェンジ開通により、経済効果が期待される。現在どのような効果があるか伺う。

２、産業開発の管理運営について、(１)、経営改善をどのように行ったのか。今後の経営方針、課題をどう捉え、どのような管理運営方法を取るのか具体的に伺う。

３、(株)陸中たのはたの管理運営について、(１)、経営改善をどのように行ったのか、今後の経営方針、課題をどう捉え、どのような対策を講じるのか。加えて、現在取り組んでいる企画

やイベント等があればお示しいただきたい。

村政運営について、1、社会福祉活動について、(1)、社会福祉の課題は、少子高齢化、孤立、貧困など、これからは住民同士のつながりをはじめ、地域全体で支え合う仕組みをつくることが大事だと思う。住民同士のつながり、支え合う仕組みづくりをどう考えているのか伺う。

(2)、高齢者のみの世帯や独り暮らしの日常的な見守りの施策があるか伺う。

2、令和8年度施政方針の6つの構造的領域ごとの将来像実現に向けた施策について伺う。

(1)、(2)、生活、(5)の交流の中にも地域自治と地域コミュニティの持続についての施策はないが、特に地域自治会は大震災以降、活動の持続に困難を来していると考えるが、地域コミュニティを持続する手当てや施策を伺う。

(2)、(4)、産業では、第三セクター陸中たのはた、サンマッシュ田野畑、産業開発公社の現状やこれからの施策や方針がないが、なぜか伺う。加えて、各社のこれからの施策や方針を伺う。

(3)、村民の関心事の新庁舎建設について、施政方針演述では数行しか盛り込まれなかったが、村長の現在の考えについて伺う。

壇上からの質問は以上です。

○議長【鈴木隆昭君】 8番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 8番、佐々木伸議員のご質問にお答えいたします。

まず、思惟創館の直近3年間の利用状況等についてですが、宿泊者数が令和5年度に530人、6年度に751人、7年度は1月末現在で718人となっております。管理運営は、道の駅と相互の波及効果を図る観点から、一般社団法人思惟の風が指定管理で行っており、村からの指定管理料と利用料金により運営しております。利用者数は計画を上回り、利用料収入は増加傾向となっておりますが、物価高騰等の影響により経費も上昇していることから、令和8年度は宿泊料金の見直しを行い、運営を継続することとしております。

次に、12月6日に開通いたしました三陸沿岸道路田野畑思惟インターチェンジ開通による村内への経済効果についてですが、この開通により、村を訪れる観光客の増加や道の駅たのはたの利用促進、さらには村内のにぎわいへの波及など、地域活性化が期待されるところでございます。開通後の道の駅たのはたの利用入り込み者数は、前年となります令和6年度と比較して、12月は150%、1月は190%、2月は307%と増加している状況であり、これに比例して売上げも順調に伸びてきていると伺っております。

今後におきましても、さらなる地域活性化へと波及効果を広げていけるよう、関係機関等と連携して、道の駅たのはたやその周辺の機能強化と利便性向上に努めてまいります。

次に、産業開発公社の管理運営についてですが、令和7年度は牛乳、乳製品加工事業に注力し、販路拡大、生産力の向上に努めることにより、営業利益の改善、確保を目指し、財政状況の好転を図るべく施策を進めてきたとのこと。具体には、新規取引先の掘り起こしによる販路の拡大、さらに新ブランド商品の開発、販売を行ったとのことであり、それに伴う生産力向上のために製造施設の改修、備品の増設、従業員の補充を行い、令和8年度以降の増収増益に向けた生産体制を整える取組を順次行っていると伺っております。内容としては、営業利益の改善を図るために、昨年10月に牛乳、乳製品全般の価格改定を実施したほか、新規事業として同業他社との連携により、昨年11月から菓子製造を開始し、またヨーグルトの新ブランド商品製造を開始しており、さらなる営業利益の確保に向けて努めているとのこと。

今後の経営方針、課題についてですが、公社の令和7年度経営方針は、6月定例議会でも答弁いただきましたが、安全で高品位な食を提供し、安心と信頼のブランドイメージのさらなる確立を目指すこと、産業間の連携に取り組み、相互の強みを生かし、経営の効率化を目指すとのことでした。さらに、公社には令和7年度村から職員も派遣しており、営業力の強化に取り組んでいる途上でございます。今後におきましても、令和7年度の経営方針を継承しつつ、その都度課題に向き合い、早期に安定した経営で事業推進できるように具体策を持って取り組むと伺っております。

次に、陸中たのはたの管理運営についてですが、本年度1月末時点での経営状況は、宿泊事業においては営業利益が約270万円のマイナス、観光船事業も同じく約580万円のマイナスとなっております。厳しい経営状況が続いております。観光船事業は、2年続けて料金改定を実施したところですが、前年度と同程度のマイナスとなっております。要因として、知床遊覧船事故を受けた安全対策の基準が厳格化され、それに伴う波浪時の出航基準が厳格化されたことにより、欠航が多く発生したことによる影響が大きな要因の一つとなっております。

宿泊事業においては、観光シーズンの繁忙期である7月30日のカムチャツカ半島付近地震及び忘年会シーズンである12月8日の青森県東方沖地震による影響でキャンセルが相次いだことが主な要因と分析しております。

経営改善については、令和6年2月に策定した経営改善計画に沿って取り組んでおり、本年度は急速冷凍機等を導入し、地場水産物の活用を図るとともに、原価率低減に努めております。引き続きコスト削減意識と事業効率を高めるとともに、観光PRと営業活動を積み重ねて、収益強化につなげるべく努めてまいります。

企画やイベントについてですが、近隣の同業者を見ますと低価格による競争が続いており、お客様を奪い合う傾向やその影響と物価高騰も重なり、事業停止した業者も出ております。陸中たのはたとしては、品質と見合った対価によるサービスを提供することにより、評判を落とさず、安心してご利用いただけるよう誘客に努めてまいります。

なお、現在は毛ガニプランやお日にち限定得々プランを新聞紙面に掲載するなど、集客に努めているところです。

次に、地域全体での支え合う仕組みづくりについてですが、地域づくりは地域住民が主体となって取り組むことが基本にあり、その上で自助、互助、共助、公助による役割分担と、個人、地域、行政による三位一体のバランスの取れた関係性が重要であると考えております。議員ご指摘のとおり、地域にとって住民同士のつながりや支え合いの重要性は、私も常々認識しているところです。一方で、人口減少が進行していく中であって、アンコンシャスバイアスや強過ぎる地域のつながりが女性、若者層や移住者の心理的負担となり、地方離れの要因となっているとの指摘もあるところです。

本村では、昔から結としての助け合い、相互扶助の精神が根づいており、現在の地域コミュニティや防災活動等の根幹として受け継がれてきております。結のよさと主体性を大切にしつつ、先ほど申し上げた多様な意見や価値観にも耳を傾けながら、暮らしやすい地域を目指して、これからの地域づくり、村づくりを村民の皆さんとともに知恵を絞って築き上げていきたいと考えております。

次に、高齢者の見守りについてですが、現在村では社会福祉協議会に委託して、シルバーサポーターによる見守り事業を行っております。対象者は、65歳以上の独り暮らしの方、または65歳以上の高齢者のみの世帯の中で見守り訪問を希望した世帯に対し、週に1回から2回巡回訪問を行っております。また、訪問した際の状況等については、地域包括支援センターと情報が共有され、その上で必要のある場合は保健センターや地域包括支援センターで再訪問を行っているところです。

次に、地域自治と地域コミュニティ維持についてですが、基本的な考え方は先ほどの地域全体での支え合う仕組みづくりでお答えしたとおりです。村としては、地域の主体性や特性を尊重する住民自治を基本としつつ、これまで培ってきたそれぞれの地域のよさを最大限に発揮できるよう、地域づくり交付金や協働の村づくり推進事業費補助金などで主体的活動を支えているところです。それと併せ、地区懇談会等で情報交換や地域課題への取組などのご意見を伺い、課題解決が円滑に行われるよう支援を継続してまいります。

次に、令和8年度施政方針演述に陸中たのはたを含む3社の記載がないことにつきましては、それぞれ法人格を有している独立した団体であることや、これまでの事業に継続して鋭意取り組んでいく方針であることから、特筆はしなかったところです。一方で、甘竹田野畑は既存事業に多額の投資を行い、事業拡張し、岩手三陸たのはた鴨ブランドとして、グループ全体を挙げて打ち出す方針であることから、村も協調した取組が必要であること等を鑑み、支援方針をお示したところです。

次に、第三セクターの現状や、今後の施策や方針についてですが、陸中たのはた、産業開発公

社については、先ほど答弁したとおりとなっております。サンマッシュ田野畑は、原価上昇対策などを図るため、自社生産に合う品種への切替えに取り組んでおりますが、その過渡期にあることから生産量が安定せず、計画収量を下回っている状況です。このことにより、販売額が目標に届かず、加えて昨今の物価高騰に伴い、今期もマイナス決算となる見込みと伺っております。

なお、現在取り組んでいる品種切替えは、令和8年度第1・四半期で完了を予定しているほか、管理体制の見直しなどにより計画収量を達成の上、令和8年度の黒字転換を図る方針と伺っております。

また、甘竹田野畑は、令和9年度の増産に向けた施設整備等を進めていることから、令和7年度及び8年度決算はマイナス決算になる見込みと伺っております。引き続き増産計画に基づき、施設及び体制の整備に努めていく方針と伺っております。

次に、新庁舎建設についてですが、現在基本計画の策定作業を進めているところです。基本計画の素案がまとまりましたら、審議会等のご意見を伺い、基本計画案を策定する予定としております。これまでの議会でもご説明しておりますとおり、現在の庁舎については耐震診断において耐震性が十分ではないことが指摘されており、対策が急務となっております。村民と職員の命を守るという観点から、そして非常災害時等における中核拠点施設であることから、早期に建設を進め、危険の解消を図るという方針に変わりはありません。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 質問の順番に聞いていきたいと思います。

思惟創館の管理運営について伺います。今数字で見ると増加傾向というか、6年、7年は横ばいのような感じ、40人ちょっと少ない感じでしたが、増加の傾向にあるということで、増加した具体的な要因、また今後の目標を聞いていたら伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 思惟創館の利用に関するご質問にお答えいたします。

思惟創館の利用が伸びた要因につきましては、まず利用者の方に周知が図られてきたこと、あと利用されている方のリピーターといいですか、一度使った方で、また予約して使ってくださる方がかなりいらっしゃるということで、そういった形で利用が伸びたものと認識しております。

課題としましては、やはり宿泊という形態の利用がほぼ全部、9割以上を占めている状況でございます。週末の利用がほとんどでございます。平日における施設の利用につきまして、検討してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 村からの指定管理料で運営しているとありますが、この指定管理料は年間どれぐらいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 指定管理料につきましては、年間125万5,100円でございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 思惟創館というか、思惟の風の利用に関してですけれども、これから思惟創館を村民が気軽に伝えるための取組、考えがあれば伺います。例えばですが、村民が利用するために村民割や古民家を生かした将棋や囲碁大会などを検討してみても、若い世代の利用者を増やすと、SNSの発信力が高い層を増やすことになり、古民家を生かした撮影や創作活動の場として開放し、田野畑村の認知度の上昇にもつながる拠点としていくような取組とか、そういうふうな何か新しい取組を考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 ただいまの質問にお答えいたします。

こちらの施設、施設整備の目的としましては、農林水産体験ということで、本村の1次産業の体験といったものを想定して造っているところでございますが、村民の方の利用に当たっては、幅広く捉えて利用いただきたいと考えております。1つの事例としては、今年度ではございませんが、運営している思惟の風さんが調整をしまして、映画の上映をやったりと、そういったこともございましたので、そういった取組をまたさらに広げていけるよう、管理運営会社のほうとも協議して進めて、検討してまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 周辺、思惟創館のことはそのようにも、今からもうSNSとか、そういう写真撮影とかで使えるような取組をしてもらえば、もっと認知度も上がると思うので、ぜひ使用の会合とかを検討してもらえばいいと思います。

それにちょっと含めて、道の駅たのはた思惟の風についてですけれども、(2)のインターチェンジ開通による効果について、村民からは、季節によるかもしれないが、商品の不足とか欠品が多いという声もあるが、商品不足を解消するために、友好都市等の商品を展開するコーナーを設けるというような考えがあるか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 ただいまのご質問にお答えします。

確かにこの時期になりますと、産直部門等、品薄なところが見受けられます。村と道の駅と協議とかしまして、どうにか冬の閑散期の時期にも利用していただきたいということで、今年度甘竹コーナー、あるいは田野畑の乳製品コーナーというコーナーを設けまして、何とか利用していただきたいなというふうに考えて、そういったことも実施しております。

今議員からお話がありました友好町村との交流につきましても、何回か話し合いといいますか、持ったことがございます。具体的に進めていけるように、今後もちっと相手側と交渉していき

たいなというふうを考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 その商品の一つとして障害になっていることは何が挙げられるか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 ただいまの質問ですけれども、障害といいます、やはりこの時期になりますと、なかなか産直部門等に野菜等々が並ぶ機会が少なくなってくるのかなというところと、あと生産者のやっぱり高齢化等もありまして、できるだけ出してほしいという願いはしてあるのですけれども、どうしても品薄になってきている状況ということになると思います。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 冬場だからそうかもしれないけれども、これから野菜とか、シーズンの物が増えていると思うのですけれども、生産者も高齢化していて、運んでくるとかというのが大変だというような声も聞こえますが、そういうふうな運んだり、ラッピングしたりというようなことを施設の中でやるとかということは考えていないのか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

確かに物は作っていても、なかなか運んでくるのが大変だとか、そういった声は私も聞いております。道の駅のほうとは、こういう話も協議したこともございます。ただ、現段階では道の駅のほうの社員の状況もございまして、実施できていないところではございますが、そこら辺も含めましてどのような形で商品を並べることができるのか、今後道の駅のほうとの協議も進めていきたいなというふう考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 今この数字だけ見れば、大変いい数字で、190%、307%とかありますが、これは冬の時期のパーセント、前年度がどれくらいかあれですけれども、開通による波及効果が期待される、この勢いに乗り、村長は新しい戦略をどう考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 道の駅に寄る車の数、また利用者が増えているということで、やっぱり今まで寄っていなかった人たちが寄ってきてもらっていると、あと道の駅の中の滞留している人も多いなというふうに見受けております。前年までが低かったというのもあるかもしれませんが、これからはオンシーズンになってまいりますので、そういう利用効果、相乗効果をより広げてまいりたいと。田野畑の玄関口としてPRして利用していただきたいというふうに、関係機関、関係者等と連携して取り組んでまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前１０時２９分）

再開（午前１０時２９分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木 伸君】 行ったり来たりするのですが、思惟の風とか、それに関して言うと、これからまたその時期になって、開通したことによって、開館の時間延長とかは考えているのか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

開通して３か月ということで、先ほど村長が答弁したとおり、利用客は現在は伸びてきている状況です。このオフシーズンになったときにどのぐらいの利用者がどの時間帯で利用しているかというの見極めながら、ここら辺、そして道の駅のほうでも対応可能かどうかというところも見極めながら、相談しながら、柔軟な対応を検討してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 ８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木 伸君】 以前からあるコンビニの計画はどうなっているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

あれからいろいろ報道とかでもありましたけれども、事業者がないという状況に変わりはありません。

○議長【鈴木隆昭君】 ８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木 伸君】 次に、産業開発公社の管理運営について伺います。

現在3,500万円の貸付けについて、どのような返済計画を考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまの質問にお答えいたします。

村への返済の計画なのですが、当初であれば今年度から返済する予定となっていたものが、公社の事情を鑑みまして、村のほうへ返済期間の延長をさせていただきながら、開始時期を５年ずらしていただきながら、返済の金額も、今返済300万円している金額と同等という内容で村のほうにお願いしているところでございます。一応計画としましては、令和14年から毎年350万円ずつの返済、10年間で完済するという予定をお願いしているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 ８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木 伸君】 中期経営計画の制定や予定はあるか伺う、またあれば期間と内容を伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 当初の毎年の方針というのは、前年度の課題等を見据えた上で方針を決定しまして、そしてその課題に見合った政策をもって対応していくものでございます。ですので、長中期的にという観点で言いますと、まずは令和7年度に進めておりました生産力の拡大、そして販路拡大、そこに重点を置きながら、収益を見込めるような取組をしていこうと思っております。

まずは、利益を上げるためには、売上げを上げるか、そして利益率を上げるか、そして経費を削減するかなのですけれども、経費を削減するという人的な削減という部分につきましては、最後の最後まで雇用をすることが使命である産業開発公社としては、最後までそこは維持しながら、今の従業員を維持しながら売上げを増加していくことで、利益を求めていけるように考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 今回から貸付けで返済を延長するということですが、延長することは受入れ態勢ができていなかったということにもつながりますが、できていなかった理由はどこにあるのか、またどうすれば改善できるか、改善策をお示してください。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまの質問にお答えいたします。

これまで毎年公社は、売上げ増を目指して取り組んできたものの、まずコロナ禍で大きな負債を抱えてしまいまして、そのときに借入れを起こしたということが理由になっております。毎年累積赤字が重なっていったというよりも、それぞれ毎年最善の努力をしていたとは思われますけれども、そういった積み重ねが今に至ったということで、返済するに当たって内部留保ができていなく、キャッシュフローが足りないというところから、経営するにはどうしてもキャッシュフローは必要ですので、後ろのほうに貸付金の返済を回していただきまして、少なくとも改善しながら進めていきたいというふうに思っています。

(聞こえないの声あり)

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前10時35分）

再開（午前10時36分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 声が小さかったということで、すみません。改めてゆっくりとお話をさせていただきます。

これまで公社も毎年努力をして営業したものの、この間のコロナ禍で大きな負債を抱えてしまひまして、そのときに長期の借入れを起こしてしまいました。その返済が今続いているところなのですけれども、赤字がちょっと累積したということもありまして、今キャッシュフロー的なところかなり厳しく、毎年の黒字を出すか、そういった均衡的な営業努力はしているものの、すぐ返済をするには、キャッシュフロー、内部的な資金がどうしても滞る可能性がありまして、村のほうに返済を後ろのほうに回していただきたいと。令和10年度からの返済、そして返済金額も半分にしていきたいというお願いをしているところです。

要員としましては、資材の高騰であったりとか、原油価格の高騰、そういったところを商品単価のほうに落とし込むということが遅れたことが要因かなというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 経営の責任は公社にあると思うが、村は経営状況の定期的な報告を求め、改善指導を行うことが大事だと思うが、村長はどう考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 公社につきましては、現理事長、前理事長、また一生懸命頑張っておられます。今年度から村からの職員も派遣しており、改善に向けて鋭意取り組んでいるところでございます。理事会等、また経営の状況につきましては、その都度必要に応じて産業開発公社から報告が上がっているところでございます。

村としては、やっぱり産業開発公社の設立目的等も勘案し、村の産業振興を図るためにも、持続、継続して、存続させながら、村の産業振興に役立てていきたいと、そのための支援等も行っていきたいというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 課題としては、できていない理由は仕組みの問題等々あると思うが、村長はどう考えるか伺います。組織的。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前10時39分）

再開（午前10時39分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】 産業開発公社の組織というご質問でございますが、大きい会社でもございませんので、いる職員で回していくというのが基本になっております。それぞれ村から委託受けております施設につきましては、配属された職員が管理して運営しているという状況でございますので、一番公社の今課題となっております収益云々というのは、乳製品部門がなかなか、先ほ

ど来畑山のほうからも答弁しておりますが、順調に来ていなかったというところが大きい課題となっておりますので、そこにつきましては組織体制ということで、村のほうからも今年度から職員派遣しております。そちらのほうで立て直しを図り、これまで具体的な営業活動ができる社員、職員というのがおりませんでしたので、そういったところを組織としててこ入れをしていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 先ほども答弁ちょっともりましたが、人材確保についてですが、現状厳しい状態だと思いますが、人材確保及び専門職の人材育成について、現状と課題をどう考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】 職員、社員の確保につきましては、ご指摘のとおり、これは公社に限らず、第三セクター、村も、村職員についても共通する課題でございます。なかなか募集をかけても応募いただけないというのが現状でございます。職業安定所を通しながら募集をかけ、それといろいろな情報を得ながら、働いてもらうように働きかけをして確保しているというのが実態でございます。専門職というようなお話もありましたが、公社につきましては、特別専門性というような、例えば乳製品工場ですと、やはり専門性といえますか、そこでの経験というのが専門性につながってくるものと思っておりますので、やはり就職してもらって、そこで経験を積んでいただくというのが一番専門性を有する社員として活用できるものだと考えているところでです。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 経営会議の定例化とかを考えてはいると思うがどうか、考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまの質問にお答えいたします。

経営会議、幹部会議ということだというふうに承りました。2か月に1回程度幹部会議を開いて、課題のくみ上げ、そしてその課題に対する対策というものを幹部で話し合っております。そのことは、都度復命という形で村長のほうに報告しております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 2か月に1回やっているということでしたが、2か月に1回は必ず村長も経営のことはもう分かっているということですか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 今経営というお話をされましたけれども、幹部会議で出されるものはあくまでも具体に対する課題であって、その課題に対する取組、その取組の方針ということをご報告させていただいております。経営に関しましては、公社の四半期ごとの理事会にお

いて数字が示されますので、その都度ご報告しているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 ありがとうございます。

まだちょっと公社についてですけども、返済できないという理由は、返済期間の期限、金額は適切だったと思っているのか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】 村の立場と公社の立場と、私両方あるわけでございますが、貸す側、村からすると、貸した以上は返していただくということでお貸ししているという状況でございますので、その期間が長いのか短いのか、それは会社のほうとも協議した上で貸したというようなことでございますので、貸付けを行った当時は、コロナも収束して、これから売上げ等伸びていくだろうという予測の下で貸しておりますので、貸す側、それから借りる側もそれに向かって頑張っていくというようなことで実施しておりますので、その当時の判断としては厳しい期間ではございますが、公社の方向性、それから頑張りというものを期待する中では、適切な判断であつただろうというふうに判断しております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 たしか令和4年3月定例会の議事録の中では、同僚議員からの貸付けの増額、無理のない返済計画の提案があつたが、その後一旦断るというわけではないけれども、あれして、村長は返済できるということのようなあれでしたが、この計画で今回返済できなかったような、あとは十分な営業活動ができていなかったとか、経営改善の努力が足りなかったのか、村長、改めてこのことを踏まえて伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 貸し付けた当時の条件につきまして、緩和したほうがいいのではないかと、本当にいい提案というか、温かい提案をいただいたところでございますが、当時といたしましては、やっぱり頑張って返済していくのだという意味も込めて、提案したとおりの返済計画とさせていただいたところでございますが、今となりましてはV字回復等もできずに、皆さん従業員、理事長、また派遣職員も頑張っておられまして、経営改善に向けて兆しが見えてきているところでございますので、公社の存続等も含めて、持続可能な運営しながら村の産業を振興していくのだということも含めまして公社から提案がありますので、何とかお認めいただきたいというところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 それに付け加えて、村としては管理、経営監督機能は十分に果たされていると思っているのか、考えを伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】　これまで、私４月から理事長を仰せつかっておりますが、それ以前を申し上げますと、その都度公社の経営状態、そういったものについては村のほうからも指導等を行ってきたところでございます。あまり村がまた介入し過ぎましても、その主体性というものがなくなってしまうので、厳しいことを言いながらも、側面から支援していくというような考えでやってきたところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】　８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木　伸君】　改めて村長にお聞きしますが、経営管理の責任はどう考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】　佐々木村長。

○村長【佐々木　靖君】　経営管理の責任と申されましたけれども、私の責任といたしましては、お貸ししたお金を確実に回収していくというところが一番最大の責任であるというふうに思っております。

○議長【鈴木隆昭君】　８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木　伸君】　その責任を果たせていないということですよね、今回は。その責任をどういうふうにあれすとか、何と言ったらいいかあれですけども、幹部の責任をどう考えているというか、返すということの責任は今回取れなかったのに対してどう考えているか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】　佐々木村長。

○村長【佐々木　靖君】　貸付けの返済を放棄したわけではございませんので、期間は長くなってしまいましたけれども、事業を継続しながら、雇用確保しながら、確実にというか、時間はかかりますけれども、全額返済してもらうというのが私の責任かなというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】　８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木　伸君】　分かったような、分からないような感じですけども、では次の陸中たのはたの経営改善について伺います。

クルーズ船の経営実績を踏まえた上で、社長である村長にこれからの経営方針を伺います。

○議長【鈴木隆昭君】　佐々木村長。

○村長【佐々木　靖君】　陸中たのはたについてもですが、産業開発公社と一緒にございまして、４億数千万円ほど貸し付けているというところでございます。その返済が始まるに向けて経営分析したところ、やっぱり観光船事業が毎年赤字で経営を圧迫しているということでございます。会社の立場と村としての立場はまた違うわけですが、会社としては赤字をなくして確実に返済できるようにしたいということで、観光船事業はやめたいという方針でもありましたけれども、村としては北山崎の観光船というのは大事な観光資源であるということで、何とか継続しながら村の観光振興も図っていききたいということで、新年度予算では公的支援を行いたいということでございます。何とぞご理解を賜りたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 予定していた来年度に向けた集客目標とかがあると思いますが、お聞かせください。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

観光船とか、後の質問にもございまして、あれですけれども、答弁で申し上げました経営改善計画にのっかってということで、さきの令和6年、5年末の貸付けと返済の関係で、そのときに経営改善計画を出してもらって、それに向かって取り組んでいるところです。集客目標というよりは、改善計画でいきますと経費削減のところも大きくて、その収益に対する、例えばですけれども、原価率を25%に設定するとか、そういった利益と支出と、その差でもって収益、営業利益が出てくるものですから、そういったところの取組を進めているところです。その売上げの関係、料理のところの原価率、あとは人件費の仕事のところのシフトとか、そういったところでの売上げ比率を下げていくとかというところで頑張っていきたいなというところで、今進んでいるところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 あと5分ということですから、飛ばして、新庁舎建設について伺います。

(3)、新庁舎建設についてですが、田野畑村新庁舎建設について、村政運営の重要な課題であるにもかかわらず、数行しか盛り込まれておらず、施政方針の中で十分ではなかったと受け止めております。新庁舎建設は、将来に向け、大きな財産的影響を及ぼす事業になります。だからこそ、必要性、財源、将来負担について、村民に対して明確な説明を果たすべきではないかと思えます。

そこで伺います。新庁舎建設の具体的な総事業費見込みは幾らか伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 お答えいたします。

事業費等につきましては、ただいま審議会等で基本計画について議論をしていただく予定としておりますので、今のところまだ決まっていないところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、佐々木伸君。

○8番【佐々木 伸君】 では、最後にですが、村長もさっきの答弁の中では、防災等ということで新庁舎を進めていくということがありましたが、現在人口減少が進み、地域コミュニティの持続や産業振興にも財源が必要となる中で、新庁舎建設が最優先課題と言い切れるのか、改めて伺います。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前10時56分）

再開（午前１０時５６分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 新庁舎建設が最重要課題という捉え方はしておりません。いろいろ諸課題、産業振興等、人口減少対策等もある中で、新庁舎につきましては耐震診断等が満たされていないということで、職員、村民の安全、命を守るという観点から必要であるということで取り組んでおります。ただ、それが一番最優先課題ということではなくて、多くの課題がいっぱいある中でも、並行して取り組んでいくということでございます。

今回の物価高騰対策でも１次産業振興、あと村民への商品券配付、そちらのほうも同時進行で進めておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 ８番、佐々木伸君。

○８番【佐々木 伸君】 新庁舎建設に期待しているわけでありませんが、財政の裏づけや将来負担の説明が十分でなければ村民の理解を得られることはないと考えますが、これは将来を左右する重大な事業で、村長の覚悟と具体的な説明をもう一回求めて、一般質問を終わらせていただきたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 お答えいたします。

議員がおっしゃったとおり、財源とかについて、村民の皆さんが安心して説明をこれからちゃんとしなければならないと思いますし、庁舎建設基金というのに一定額、庁舎建設のための基金を積んでおりますので、そういったことをご理解いただけるようにこれから取り組んでまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 これで８番議員の質問を終わります。

10分間をめぐりに休憩いたします。

休憩（午前１０時５９分）

再開（午前１１時１０分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、２番議員の質問を許します。

２番、上村浩司君。

〔２番 上村浩司君登壇〕

○２番【上村浩司君】 議席番号２番、上村浩司です。令和８年田野畑村議会３月定例会におきまして、通告に基づき村政運営及び産業振興に関して一般質問を行います。

初めに、観光関連の取組についてお尋ねいたします。現在岩手県では、令和4年度から令和8年度までを県政150周年記念期間と位置づけて、様々なイベントを行っております。また、来年度は国内外の大型クルーズ船が宮古港や大船渡港に30隻余り寄港予定であり、本村への来訪も期待されるところであります。このような状況を踏まえた上で、3つの項目について質問いたします。

1つ目は、本村の特産品や観光資源のプロモーションについてであります。これまで交流を深めてきた友好都市や首都圏はもちろんですが、SNSやふるさと納税などを活用した新しいつながりも確実に増えてきております。今後さらに本村の魅力を発信していくため、どのような取組を行っていく予定であるのかお伺いいたします。

2つ目は、道の駅たのはた思惟の風関連についてであります。観光などで本村を訪れる方々にとって、道の駅はまさに玄関口としての役割を担っているとも言え、インターチェンジも開通し、これからの観光シーズンに向けて利用者の増加が期待されます。また、三陸沿岸道からのアクセスもしやすくなり、ドライバーが立ち寄りやすくなったことで、利用しやすい道の駅の一つとして認識されているのではないのでしょうか。今後利用者の増加とリピーター率の向上のため、道の駅やその周辺一帯のさらなる機能強化も図られるべきと考えますが、何らかの計画があるのかお伺いいたします。

3つ目は、観光案内板の設置に関するものであります。本村には、三陸沿岸道に接続されているインターチェンジが道の駅を含めて5か所あり、観光客等の利便性に沿った案内板の設置が必要であります。また、観光客をはじめとして、本村滞在中に災害が発生した場合の避難経路の確認の際も、その分かりやすさが求められます。こういった案内板につきまして、今後増設する予定があるのかお伺いいたします。

次に、役場新庁舎の建設候補地についてお尋ねいたします。現在千島海溝沿いでは、超巨大地震に匹敵するひずみが蓄積しているとの調査内容が報道されております。このような中、アズビィ周辺は役場新庁舎の建設候補地となっておりますが、地盤の安定性についてはどのように捉えているのかお伺いいたします。

次に、産業開発公社について2点お尋ねいたします。1つ目は、現在日本政策金融公庫からの長期借入れについて返済中であり、村貸付金もあるわけであります。経営への影響という点で見れば、国内外の様々な状況の変化によるものも少なくないと思われませんが、今後着実に返済が可能と言えるのかどうかお伺いいたします。

2つ目は、新しい施設の増築など、事業内容が拡大した場合、財務内容を踏まえた上で職員の人数を増やすのか、それとも現状のままで対応していくのかお伺いいたします。

次に、陸中たのはたの経営状況について2点お尋ねいたします。1つ目は、ホテル羅賀荘の宿泊客数の状況及び客室について、和室のみの対応であるのかお伺いいたします。

2つ目は、観光船事業について、最近の燃料費の高騰や乗船客の減少等で厳しい状況にあり、何らかの改善策について検討しているかお伺いいたします。

以上のことにつきまして明快な答弁を求め、私の質問とさせていただきます。

○議長【鈴木隆昭君】 2番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 2番、上村浩司議員のご質問にお答えいたします。

まず、令和8年度の物産及び観光関係のプロモーション実施予定についてですが、友好都市である埼玉県深谷市及び青森県藤崎町、一昨年から出展させていただいております東京都三鷹市の催事において、物産販売と観光PRを行う計画としております。また、盛岡市内で開催している村6次産業化推進協議会主催の物産イベントも好評を得ていることから、継続開催を計画するとともに、村内事業者が催事等に出店する場合についても支援することとしており、関係予算を令和8年度当初予算案に計上させていただいております。その他、機会を捉えて物産、観光をはじめ、村のPRには努めてまいります。

次に、道の駅一帯の機能強化に向けた取組についてですが、隣接地に森林体験施設を整備する計画としており、本年度岩手県からのスポット派遣による支援や指導も受けながら、伐採と伐根等の基盤工事を開始したところです。完成後の利活用についても検討を進めており、新たな森林活用の試みとして注目される気候性地形療法、クアオルト健康ウォーキングについて、コース設定などの取組を行うこととしております。また、令和9年度には第17回いわて森の感謝祭を道の駅周辺において開催するよう県に要望していることから、これと併せて森林体験施設整備などを進めていくこととしております。

また、本年度遊具整備について、宝くじ助成事業を活用して道の駅周辺への設置を計画していましたが、残念ながら不採択となりました。新年度におきましては、道の駅利用者や村民の満足度が高まるよう様々な助成事業などを模索、活用して、遊具の充実を図ってまいりたいと考えております。

次に、三陸沿岸道路の観光案内板についてのご質問でございますが、岩手県道路交通環境安全推進連絡会議から示されている形態の標識について、道路管理者である国が最寄りのインターチェンジ付近に設置しているものとなっております。本村では、北山崎方面という案内板が北が普代インターチェンジに、南が田野畑南インターチェンジに設置されており、いずれも県道岩泉平井賀普代線を経由して案内するルートとなっております。また、道の駅たのはたまでの案内看板なども三陸沿岸道路敷地内に設置されているところです。観光施設案内板等を別のインターチェンジへ新設する場合は、複数設置されることで道路利用者の混乱を招かないことが前提とされ、岩手県道路交通環境安全推進連絡会議で認められたものが設置可能となる仕組みとなっております。

す。

また、村が主体的に村道等に設置する案内板は、既に交差点等に設置しているものと認識しておりますが、新たに設置が必要な箇所については、その都度検討してまいります。

次に、災害時の避難誘導についてですが、沿岸部には津波から避難するための避難誘導標識を整備しているほか、避難所となる施設に標識を設置しております。このことは、防災マップを各世帯に配布し、村民には周知しているところですが、観光客等には周知が難しい面もあることから、今後の災害時における国道、県道をはじめとする交通規制情報等の提供の方法を含め、検討が必要と考えております。

次に、新庁舎建設に係るアズビィ周辺の地盤の安全性についてですが、現在楽習センター、体育館及びホールの3施設が建設されており、地盤について大きな危険性はないものと捉えております。進めております基本計画を策定の後、事務所の位置条例の可決をいただいた上で、地質調査を実施し、構造上の安全性を確保、勘案しながら事業を進めてまいります。

次に、産業開発公社の村貸付金の返済についてですが、公社は令和2年に日本政策金融公庫から2,900万円の長期借入を実施しておりますが、これまで返済に当たり遅延はなく、今後も着実に返済の見込みと伺っております。しかしながら、現状では同公庫と村へ同時の返済は厳しいことから、村への返済については公庫への完済後としていただき、返済猶予及び返済期間の延長並びに返済方法についての変更も併せて村に要望書の提出がされたところです。

現在取り組んでいる新規事業や設備整備事業等を順次行うことにより、堅調な販売、売上げも期待できることから、公庫への完済後、公庫の返済額と同額程度は着実に返済されるものと考えております。

なお、公社の取引業者から、産業振興や現在取り組んでいる新商品開発等に期待していることから、関連財源に役立ててほしいとの趣旨で、高額の企業版ふるさと納税の申出もいただいているところです。

次に、公社の施設増設後の人員体制についてですが、会社定款の第3条で、村内の土地資源及び労働力を高度に活用し、村産業の開発による生産物の増産と就業機会の増大及び所得の向上を図るとうたっていることから、事業の拡大に伴い、雇用の機会は増えるものと伺っております。既に本年度開始した新事業の製造に向けて、昨年6月から徐々に雇用を増やしており、生産体制を整えてきたとのことでした。

また、乳製品加工施設の発酵室増設後の人員体制ですが、作業工程、勤務体制の見直しを図り、現状の従業員数で増産できる体制をまず整えながら、さらに需要が見込まれる場合は雇用の創出を図り、増産体制を整えると伺っております。

次に、ホテル羅賀荘の経営状況については、8番議員に答弁させていただいたとおりでございますが、宿泊者数については年単位で比較すると、令和6年2万4,075名に対し、7年は2万

2,656名で、前年比1,419名の減となっております。また、客室数については、全67室のうち和室64室、洋室3室となっております。団体旅行客や修学旅行には和室が適しておりますが、昨今の主流である個人客向けのベッド設置について、労働時間の削減や宿泊者数の動向など、収益バランスも考慮しながら検討を進めているところです。

次に、陸中たのはたの観光船事業の経営状況については、これまでの議会においても度々ご指摘をいただいているところでございます。需要の減少や運航経費の増加等によって厳しい赤字経営が続いており、令和6年、7年と運賃改定等による経営改善を図ってまいりましたが、自立的な黒字経営への転換は困難ではないかと考えております。陸中たのはたとしては、観光船事業の赤字は会社経営全体に深刻な影響を及ぼしていることから、これ以上現状維持での事業継続は困難であるとして、村への申入れもあり、協議を重ねてきたところです。

観光船事業は、三陸復興国立公園並びに村の基幹的な観光資源である雄大な北山崎を海から体験できる村の観光振興、震災復興における最も重要な観光インフラの一つと捉えており、事業を中止することは村の観光戦略全体に重大な影響を及ぼすものと考えております。村としては、この重要な観光インフラを継続して運行し、村のイメージアップを図ることができるよう、赤字相当分を公的資金で補うことについて、令和8年度予算に計上しているところですので、ご賛同を賜りたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 補充質問を行いたいと思います。

その前に、自治会活動に対しまして、村のほうからのサポートや協力、ご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

それで……

○議長【鈴木隆昭君】 2番議員の質問中ですが、暫時休憩いたします。

休憩（午前11時29分）

再開（午前11時29分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

○2番【上村浩司君】 順番に補充質問のほうを行いたいと思います。

まず、物産や観光関係のプロモーションの実施予定ということで、私のほうでの一般質問の文書にも織り込んでおきましたが、まず来年度大型のクルーズ船等が30隻ほど宮古港や大船渡港に寄港予定というふうに聞いております。それで、これまではこういった客船の入港については、村のほうから歓迎セレモニーに参加しているというふうに行政報告等でも拝見させてもらっておりますが、どういう感じで村のほうからは参加して、例えば物産等も持ち込んだり、観光PR等

を行ったりというような感じでの参加になっているのか伺いいたします。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

クルーズ船の関係につきましては、宮古市を中心としたフェリーの利用促進協議会というのがございまして、その一員として管内の会議があります。それによって、こういう寄港の予定がありますよというところでの案内がまずはありまして、その都度来ていただけませんかと、歓迎セレモニーに来てくれませんかというところで、まずは村長、そしてスケジュール、数が多いものですから、重なったときに副村長、あとは私とか担当とかというところで、日程は調整させてもらって行っています。その中で、寄港して観光客が田野畑にも来るとか、北山崎に行くとかというところの情報をいただいておりますし、あとは歓迎セレモニーに村の郷土芸能がたまに呼ばれたりとか、管内のところではいろんなところに声をかけて、その都度、この宮古地域で盛り上げていこうということで、そういった話合いを持って、その都度宮古市のほうでも利用促進協議会のほうでも、この会を、セレモニーをどうしたらいいかとかというところは話し合いながら進めているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。例えば村の特産品みたいなものを直接販売するというのではなく、パンフレットの的なものをお示しするというか、皆さんに差し上げるとか、そういう感じの活動といいますか、参加というふうに捉えてよろしいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 セレモニーに行ったときには、村の特産品を船のスタッフの方にプレゼントしたりとかもしておりますし、実際はパンフレットとか、そういうのは事前には配られていまして、あとは例えば田野畑に来る、盛岡に行く、そういったことは現地で行いますので、そういった人たちに来てもらってのおもてなしになりますものですから、事前にその方は承知している状態ではあるということになります。

あと、セレモニーのときには、お店とか、出店みたいなものですか、そういったのもあるのですが、田野畑では行ったかどうかあれですけども、まだそこまではやっていないところではございます。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 船の大きさにもよりますが、結構な人数のお客さんが乗ってくることが多いと思いますし、実際特産品等を配るといっても、なかなか大変な部分もあるのかなというふうに思いますので、来年度30隻ほど来る予定ということで、そちらのほうの機会もできるだけ捉えていただきながら、村のPRも行っていいただければなと思っております。

それと、本村との友好都市ということで、青森県藤崎町、埼玉県深谷市、そしてまた東京都の

三鷹市、こちら3市町、友好を深めながら村のPRもされているということですのでけれども、この友好市町村は、今後を増やしていけるような何かつながりというものは、現在感じている部分はございませんでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前11時35分）

再開（午前11時35分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】 友好都市等の拡大というようなご質問かなと思いますが、まず末永くお付き合いしていけるかどうかというのがやはり一番重要なポイントだと思っております。本村、小さい村でございますので、拡大していても対応できない場合は、かえって失礼があるのではないかと。それから、先方の交流いただくところの事情というものもございますので、中には物産交流ですとか、そういった程度で、それ以上深いつながりというのは望まないと、皆さん同じ等距離で、ほかのところともお付き合いをさせていただきたいというような申出もございますので、お声がけがあれば、検討は当然させていただきますし、何か機会があって、逆にこれからこちらから働きかけて交流が深まっていく都市があれば、そういった機会も捉えて、また深いつながり、友好は進めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。きっかけ等があった際には、交流が始まるということとは当然ですが、なかなかそれ以外ですと、今副村長がおっしゃったように、その後の継続したつながりといいますか、そういったものも考えての輪を増やしていけるかどうかということにもなってくると思いますので、ここについてはもしそういった機会が訪れましたら、ぜひ考えていただければなというふうに思います。

それから、岩手県との関連ではありますが、銀河プラザ、こちらのほうを首都圏で岩手県として展開しているわけです。今月の3月9日から13日までは三陸フェアということで、3月11日の震災からの復興、そういったものもありますので、三陸フェアというふうに1週間銘打って、様々な商品を展開しておるようですが、私ちょっと銀河プラザのホームページのほうを拝見したところ、様々特産品も県内各自治体紹介されておりますし、オンラインストアというものもございました。いろいろこういったものがあるのか見させていただいたのですが、岩泉ヨーグルトですとか、普代産のすき昆布、あとほかにも近隣のものはありましたが、本村の特産品が、私の見落としかなと思ったのですが、ちょっと見つけれなくて、この銀河プラザで本村の特産品の取扱いとか紹介については、何かこちらからの提案とか、打合せとか、そういったものはあったりす

るのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまのご質問にお答えいたします。

銀河プラザで開催されています三陸フェアで、村の特産品が見当たらないというお話だったのですが、今回このフェアに当たりまして、特段公社のほうに問合せがあったことはございません。選定等は、銀河プラザを管轄している岩手県さんのほうでされたものかなというふうに思っております。来年度に向けて、このような情報があったということをお方さんにお伝えして、ぜひご紹介いただけるように、こちらのほうから発信したいというふうに思います。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 こういった銀河プラザでの紹介等も、村のPRも当然兼ねておりますし、商品の販売等も、できればこういった場面で増やせれば非常によろしいかなと思います。仮にこれからそういった働きかけを多くしていくというものであっても、何か近隣市町村とどうしても比較すると、ちょっと残念な気もいたしました。アイガモの生ハムというものも取り扱われておりましたが、田野畑との直接の関連も、ちょっと私のほうでも見つけられなくて、先ほど8番議員の質問の際にも、岩手三陸たのはた鴨、こちらのほうも出ておりましたし、カモについても田野畑でも、また甘竹さんと協力して積極的に進めていく方針でありますので、こういったものも含めて首都圏を含めた国内に広く村のほうをPRできるいい機会であると思っておりますので、何とか活用していただければなというふうに考えております。

それでは、次の質問項目ですが、道の駅周辺一帯の機能強化、こちらについて少しお伺いしたいと思います。まず、クアオルト健康ウォーキング、こちらにつきましては私も担当課さんのほうからお声がけいただいて、何回か参加させていただきました。非常に歩きやすい、そういったコース設定でもって、肩肘張らずにウォーキング楽しめるというようなプログラムかなと思って参加させていただきました。こちらのほうは、コース設定というふうに取り組んでいくということになっておりますが、実際にコースのほうが設定された場合は、例えばインストラクター的な方を呼んで歩くというようなものになるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 クアオルト健康ウォーキングへの質問についてお答えいたします。

こちらのクアオルト健康ウォーキングというのは、個人の体力に合わせまして、運動リスクの少ないウォーキングを行うことで、健康づくりを行っていくというものとなっております。今年度県の林業関係のスポットの派遣を受けまして、道の駅周辺の森林活用の施設の整備の検討を行ってきた中で、そこの活用ということでどういったものがあるかということを検討した中で出てきたものでございます。昨年度は、勉強会ということを重ねまして、来年度以降試験的なイベント等の開催、またこちらの健康ウォーキングをするためのガイドの養成といったところに取り

組んでいくことを検討しているところでございます。

こちらのクアオルト健康ワーキングというのは、基本的にはガイドがあってということが基本ではあるのですが、回を重ねていくことで、参加する方が自らそういった取組をできるということであれば、コースを自由に使って健康づくりに取り組んでいくというところまでつながれば、村民の健康にもつながるということで、より効果が出るものと認識しておりまして、そういったところに向けて検討を進めてまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。私も体験村・たのはたネットワークのほうでトレイルコース等を歩かせていただいたり、ガイドもやらせていただいております。なかなか本村のコースは魅力的ではあるのですが、歩ける方、体力、そういったものに少し自信のある方が歩いていただいたほうがいいかなというふうには常々感じておりました。歩きやすいコース設定で気軽に参加できるこういうウォーキングというのも、本村のほうで体験できるのだよということ、またPRできることは非常にいいことかなと思っております。

少し道の駅関連で、電動自転車、こちらのほうも用意されていたかと思うのですが、こちらの利用のほうは現在どういう感じになっているか、もしお分かりであればお願いしたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

道の駅に設置しています電動自転車につきましては、私が聞いた限りだと、ほぼ利用がないというところでお話を伺っております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 私も一度だけ試乗はさせていただいたのですが、実際まだしっかりとした利用をしたこともなくてあれなのですが、できればこういった道の駅周辺で健康につながるような、いわゆる体力が十分でないと感じられている方にも利用できるものがたくさんそろえられているというような、そういうPRも併せて行っていただければなというふうに思います。

あと、答弁の中に記載されていますいわて森の感謝祭、こちらのほうは9年度に開催するように要望されているということですが、具体的な内容というはどういったものになる予定でしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 いわて森の感謝祭に関する質問にお答えいたします。

こちらは、県のほうで毎年いろいろな市町村を会場に開催しているものでございまして、植樹が主な内容になってまいります。そこに加えて、各市町村の独自の取組として、例えば郷土芸能の披露ですとか、そういったことも検討し得るということで、今後田野畑らしい内容というところ

ろを含めることができないものか協議してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。

それと、遊具の整備についても答弁いただいておりますけれども、こちらのほうがちょっと不採択になったというふうな内容のようでして、これは何か考えられる要因というのがあったりするものなのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

今年度宝くじ助成に応募したのですけれども、残念ながら不採択となりました。考えられる要因といたしましては、ちょっとないという状況で、当たるものだと思って申請しておりましたが、新年度におきましても引き続き要望しておりますし、またもし違う助成、いい助成等があったら、そちらのほうも活用しながら、遊具の充実を図っていききたいというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 もしこの遊具、施設、事業が執り行われるとなった場合、その遊具を設置する場所というのが道の駅の建物の裏側、思惟創館よりちょっと上というか、そういった場所を予定されていたのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

今お話があったとおりの場所でございます。令和6年度に1基遊具を設置させていただいたのですけれども、敷地の面積とかもあまり広いところではないので、その敷地に合った大きさの遊具というものを考えておまして、再来年という形で順次整備できていければなというふうに考えています。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。

それでは、次の質問事項に移りたいと思います。村の観光に関係して、案内板の設置、これに関して何点か質問をしたいと思います。答弁いただいたものの中に、県のほうの安全推進連絡会議というふうな会議があって、そちらのほうで認められたものが設置可能になるというような仕組みと記載されておりますが、この連絡会議に対しては、例えば村のほうからどなたか担当者が出席するとか、あとは村のほうからの提案を提出というか、提案を出すというような、そういう感じで会議のほうは開催される形式なのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 地域整備課長。

○地域整備課長【平坂 聡君】 ただいまのご質問でございますが、道路交通環境安全推進連絡会議というものでございますが、これは道路管理者がこの会議に設置する看板の内容を諮るというよ

うなものでございまして、新しい看板とか、そういったものを設置する際に、標示の名称がこういうものでいいとか、あとは内容が適正かどうかというものを、最終的にこの会議でもって諮られるというような内容のものでございます。

具体的には、交通安全上の警察の関係の方とか、道路管理者は岩手県の関係課の方が委員となって構成されているものでございます。その中で、該当する市町村であるとか、観光関係の方の意見というものも必要であれば聞かれることもあるというように認識しております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。

それで、私のほうでちょっと村民の方から伺った意見の中で、北山崎という看板について、三陸沿岸道にもう少しあったほうがいいのかという意見もいただいております。ただ、こちらのほうの答弁の中には、普代インター、そして田野畑南インターのところに案内板が設置されているということで、実際これ以上設置しても、もしかして場所によっては混乱を生じさせる可能性もなくもないと、そういったことも考えられますので、どうなのでしょう。新たに増設する可能性というのは、今後はないというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 地域整備課長。

○地域整備課長【平坂 聡君】 ただいまのご質問でございますけれども、現在普代インターと田野畑南インターに北山崎方面という案内がございます。そのほかに追加したい場合ということですが、基本的には国の管理する三陸沿岸道路ですので、道路管理者が国になりますので、追加する場合に、追加する理由と追加する場所、そこについて国への協議が必要と考えております。あとは、設置する場合の方法として、国にお願いする場合と、村が設置する場合とあると思いますけれども、その辺を整理して国と協議が必要であると考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。

それでは、次の質問に移りたいと思います。新庁舎の候補地について安全性、こちらのほうの質問をさせていただきましたけれども、庁舎建設を検討していく中で、村のほうからスケジュール等も以前示されたと思っておりますが、地質調査、そして測量、こういった部分については、来年度行う予定になりそうなのでしょうか。その点についてちょっとお伺いしたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 お答えいたします。

ご質問ありました地質調査でございますが、まず今基本計画のほうの策定作業を進めておりまして、そのめどがつかましたらば、議会への説明等もあると思えますし、あとはパブリックコメントということで、住民の皆さんから意見を頂戴したいと。そして、その後に議会のほうへ位置条例を提案させていただきまして、タイミングとすればその後に地質調査ということになろう

かと思っております。時期でいいますと、あくまで今の段階のあれですが、6月定例会とか、その前後であるとか、その辺りが一つの目安になるのではないかなと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 ありがとうございます。

では、ちょっと次の質問のほうに移らせていただきます。産業開発公社の関係についてお伺いいたします。政策金融公庫への返済のほうも着実に行われているということでした。村からの貸付金についても様々な事情を勘案していると。なかなかいろんな要因によって、厳しい面もあるというようなことでした。新しく取り組む施設の増築、現在例えばプリンの製造ですか、こういったものは既に行われていて、さらにその増築部分で、そこはプリンを製造するか、ヨーグルトの製造になるかはあれなのですが、増やしていきたいということと捉えてよろしいのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまの質問にお答えいたします。

増築部分というものは、冷蔵発酵室ということで、その発酵室はヨーグルトの発酵を行うところなのですが、冷蔵庫としての機能も持ち合わせております。現在発酵室がちょっと不足することによって、スペース的に1トン程度の製品しか発酵できないと。それ以上の増産となった場合に、もう一つ発酵室が必要だろうということをお願いしているところです。

あわせて、今プリンというお話がございましたけれども、冷蔵庫として活用できるということで、実は出荷をするための冷蔵庫も不足をしております、発酵室と冷蔵室、そちらを兼用しながら生産体制を整えていきたいというふうに考えて、お願いしているところです。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 今後の増築後、事業をさらに拡大していった場合の収益というのも、上がっていくだろうというような見込みでありますので、まずそこについては期待したいなというふうに考えております。

最後の質問になりますけれども、陸中たのはた、こちらのほうは観光船事業、なかなか厳しいように感じております。実際運行する期間というのは、4月から11月までですか。料金のほうも段階的に値上げはしてきましたけれども、こちらも様々な要因で、燃料費ですとか事故の影響、そういったものもあるかと思えます。現在私が把握している範囲では、イベントに絡めた運行というのは、正月三が日とか二十歳の集いですか、こういったものがあると思えます。イベントの回数を増やす機会を何とか探っていく、あとはそれこそ団体旅行とか、生徒さんたちの研修旅行みたいなものの誘致、こういったものも以前ほどではないかもしれませんが、改めて行っていく必要が、誘致に対して動く必要があると思いますが、こういったことの検討、会議、そういったものについては開催されておりますでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 観光船についてお答えいたします。

陸中たのはたの運営につきましては、基本的には毎月1回、私どもが行って経営の状況を伺ったりとか、あとはどういう活動をしているのかというところは伺っているところです。それで、おっしゃるとおり定期運航で来たお客様に乗ってもらうというのはもちろんなのですが、企画をして、例えばツアーと抱き合わせるとか、定期運航以外でも運航するとかということは考えておりました、そういうふうに営業努力もしているところです。やっぱり今の波の状況とか、知床の関係もあって、なかなか欠航が多かったというところがどうしてもいっぱいありまして、そういったところで、料金を上げて何とかというところで、昨年度と同じぐらいの赤字というところまでは持ってこられたのですが、それ以外のところをどうするかというところだと思います。観光の会議とかでも、例えば北山崎にそのまま行くのではなくて、例えば鵜ノ巣のほうはどうだろうかとかという話もありました。そういったところもテストしてみながら、村のいいところを巡れる、そういった誘客につなげられるような施策を相談してやっているところですので、ちょっと何かにか、やっぱり試験的にやっていきたいと思っています。

○議長【鈴木隆昭君】 2番、上村浩司君。

○2番【上村浩司君】 様々取り組むべき課題は多いわけですが、何とか一丸となって頑張っていたきたいですし、私たちも頑張らなければいけないというふうに感じております。

質問は以上とさせていただきます。

○議長【鈴木隆昭君】 これで2番議員の質問を終わります。

昼食のため1時まで休憩いたします。

再開（午後 零時05分）

再開（午後 1時01分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、5番議員の質問を許します。

5番、畠山智君。

〔5番 畠山 智君登壇〕

○5番【畠山 智君】 議席番号5番、畠山智です。令和8年3月定例会において、通告に従って産業振興について2点質問したいと思います。

1つ目、林業振興についてです。航空レーザー測量について、岩泉町、普代村と共同実施ということですが、いつ頃測量を実施するのか、どのくらいの期間がかかるのか、田野畑分はいつ頃完了するのかを伺います。

2つ目、酪農振興についてです。現在田野畑村で農協に生乳を出荷している農家は何件なのか、どのくらいの量なのか、そのうち産業公社は何%ぐらいを使用しているかを伺います。

壇上からの質問は以上２点となります。明確な答弁をお願いします。

○議長【鈴木隆昭君】 ５番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 ５番、畠山智議員のご質問にお答えいたします。

まず、航空レーザー測量の実施予定についてですが、実際の詳細スケジュールは窓口となる岩泉町と受注業者間での協議で決定いたしますが、計画では４月下旬に契約手続を開始し、事業者を決定の上、業務を開始し、令和９年２月に業務完了の見込みとなっております。航空機による測量は、岩泉町、普代村、本村、それに東北森林管理局管轄分を一括で行うもので、レーザー測量作業は数日で完了いたしますが、その後現地の補足調査及び取得したデータの分析業務を行った上で、利活用できる形での納品となることから、２月完了予定としているものでございます。

次に、本村の生乳生産量についてですが、現在農協に生乳を出荷している酪農家は７戸、乳量は年間約５,０００トンとなっております。このうち、産業開発公社の購入乳量は約１,０００トンとなり、村内生産量の約２０％を製品に加工しております。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

５番、畠山智君。

○５番【畠山 智君】 測量が来年２月頃というのは、来年の今頃は村の森林、どこにどういう木があって、どのくらいの高さの木があるかということが分かるということよろしいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 ただいまの質問にお答えいたします。

今回の事業で航空レーザー計測でデータを取得しまして、分析し、そのデータをこちらで見ることができるような形での納品をしていただくことを想定しておりますので、来年２月以降、今お話しいただいたような、どのような木があるかといったものを見ることができるようになります。

○議長【鈴木隆昭君】 ５番、畠山智君。

○５番【畠山 智君】 そのデータは、希望すれば一般の人でも閲覧とかデータとしてもらえるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 ただいまの質問にお答えいたします。

一般の方も見られるような形を想定してございますので、個人情報等気をつける部分ございますが、この標点にどのような木があるかといった情報については、閲覧できるような形を検討してまいります。

○議長【鈴木隆昭君】 ５番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 ちなみに、そのデータ見るのにお金は必要になるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 無償で御覧いただくことを想定しております。

○議長【鈴木隆昭君】 5 番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 これを導入することによって、かなりメリットあると思います。森林は村の財産だと思っていますので、財産管理ができるなと思って非常にいいことだと思っています。田野畑村の総合計画の中の林業の中で、民有地の間伐、路網の整備とありますけれども、これは前回も今回の中身はあまり変わっていないのですけれども、これまで計画的に行われてきていると思うのですけれども、進捗状況とかは順調に行われているのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 林業に関する質問についてお答えいたします。

総合計画のほうに記載しております民有林の間伐、路網整備の利用の関係ですが、幾つか間伐の事業ございまして、実施している部分もございしますが、主に現在の総合計画で想定したのは森林環境譲与税という新しい制度の利活用を想定したものでございました。実際調査等に想定より実施の遅れが生じまして、今年度調査のほうがおおむね完了いたしまして、実際にどこに間伐を入れるべきかといったところが今年度整理がつくといった状況でございます。

森林環境譲与税を活用した民有林の間伐という部分でいきますと、来年度以降の実施ということで、その中で路網の整備等についても対象とされてございますので、必要な部分があれば路網といったところにも手をつけていくということになってまいります。

○議長【鈴木隆昭君】 5 番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 田野畑村の地形は、ほかに比べてちょっと山の起伏が激しくて、路網というか、道を造るのは大変だと思うのですけれども、安全に気をつけてやられていると思います。

そのデータによって、結局今度は伐採しない適正な木も出てくると思うのですけれども、そういった場合、やっぱりそれを優先するような考えでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 お答えいたします。

来年度実施予定の航空レーザー測量におきまして、地上はどういった形態かという情報を入手することができます。これによって、過去に造った路網がどういったものがあるかというところの情報も分かりますので、そういったところの利活用をしながらということも考えられますし、あと伐期を迎えた木、山、しかもある程度まとまった土地であれば、伐採するに当たって効率的ですとか、そういったところも加味しながら、どういったところから伐採すべきか、そういったところを検討してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 5 番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 村有地と民有地とあると思うのですけれども、村有地を優先するような方向なのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 お答えいたします。

民有といいますか、個人の所有の山につきましては、村のほうで伐採してくださいというようなことは想定しておりませんで、先ほど私が申し上げました伐採の計画につきましては、村有林、あと過去に村行造林という形で整備させていただいた山の伐期を迎えてくるところがございますので、そういったところの伐採について検討していくということでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 5 番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 今ナラ枯れ等もあって、なかなか業務は大変だと思うのですけれども、範囲も広いのですけれども、計画よく、長丁場になると思いますけれども、ひとつよろしく願います。要望でございます。

次に、酪農のほうですけれども、現段階では販路を拡大しても十分な牛乳はあるということですのでよろしいですね。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 お答えいたします。

産業開発公社さんの必要な乳量ということと理解してお答えいたします。現時点での村内での年間の生産乳量がかかり、現在産業開発公社さんで購入いただいている乳量よりも多うございますので、今のところ余裕があるという認識であります。

○議長【鈴木隆昭君】 5 番、畠山智君。

○5 番【畠山 智君】 容易なことではないと思いますけれども、開発公社では販路を拡大して、牛乳なのか、ヨーグルトなのかはよく分からないのですけれども、ぜひ経営の改善のほうに向かってもらいたいと思います。

とはいっても、将来的に酪農家にかかわらず、後継者がいないという問題が当然あると思います。将来的に生乳が不足する事態を杞憂する必要はないとお考えでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 ただいまの質問にお答えいたします。

今回酪農に限らず、今1次産業はかなり厳しい状況が続いており、担い手不足というところが大きな課題となっております。生乳の生産におきましても、現在法人の牧場さんがかなり生産を伸ばしているということがあって、生産量が維持といいますか、伸びている状況という事情がございまして、個人農家さん、そういったところでの担い手の対策というものは引き続き重要なテーマと考えてございますので、この辺りについても配慮しながらといいますか、ご意見を頂戴しながら検討してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 5番、畠山智君。

○5番【畠山 智君】 さっきも言ったように、農業に限らず、農業だろうが、漁業だろうが、後継者不足というか、問題になっております。一説によりますと、やっぱり親が苦勞してやっているのだけれども、それほどの実入りがいいから親が無理にもう子供に勧めないと。子供がやりたいと言っても、やめたほうがいいのだとかいうふうな状況もあると思うのですけれども、その辺どういうことが補助というか、対策すればまたやってもらえるというのか、その辺よく経営者というか、やっている方々と協議しながら、なるべく続けてもらうような方向に進んでもらうように、村としても協力というか、バックアップというか、そういうのをやってもらいたいと思います。

一説では、もうからないけれども、対面でやっている人であれば、おいしかったよとか、ありがとうございますと言ってもらえれば、それが達成感であって、大変だけれどもまたやろうかなという気持ちの人もいるということを知っておりますので、そういうのも踏まえて、何とか次につなげていくようにやってもらいたいと考えております。

私は、これで質問を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 これで5番議員の質問を終わります。

次に、3番議員の質問を許します。

3番、小野協次君。

〔3番 小野協次君登壇〕

○3番【小野協次君】 議席番号3番、小野協次です。令和8年3月定例会において、通告に基づき村政運営、産業振興について質問いたします。

令和8年度当初予算は、佐々木村政2期目スタートの予算となります。歳入について、自主財源の確保と将来世代に不安を与えないような予算執行が求められると理解しております。1点、令和8年度予算で寄附額が6,750万円と、令和7年度補正予算8,794万5,000円と前年度より少ない予算となっています。令和7年度の当初予算より2,750万円増えてはいるが、消極的な歳入と捉えかねないと思うが、村長の考えを伺います。

2点、令和5年度より少しずつ財政調整基金が減少する傾向が見受けられるが、新庁舎建設など中長期的な投資を踏まえた際、財政調整基金はどの程度の残高を維持すべきと考えるか伺います。また、現行計画と照らして、財政運営に影響はないか伺います。

新庁舎建設については、村民の中に建設後の財政の影響を心配する声があると理解しています。1点、令和7年第8回定例会の一般質問での具体的な整備手法については、他自治体の事例を参考にしながら適した手法を取り入れるとのことであったが、現在の村長の考えを伺います。

2点、村民の中に、小学校を役場に改修すればよいとの声はまだあります。奈良県下北山村で旧下北山小学校を役場に改修した事例があるが、村長の考えを伺います。

産業振興についてですが、令和8年第1回臨時会で議決した物価高騰対策支援補助金は、物価

高に苦しむ村民、農林水産業者に速やかに執行すべきと考えています。1点、地域商品券発行事業、農業物価高騰対策支援交付金、林業物価高騰対策支援交付金、水産業物価高騰対策支援交付金について、執行状況について伺います。

2点、第三セクター光熱水費高騰対策支援補助金は執行されたのか。また、第三セクターの現在の経営状況についてどう捉えているか伺います。

以上、村政運営、産業振興の壇上よりの一般質問を終わり、当局の答弁を受けての補充質問を自席にて行いますので、よろしくお願いいたします。

○議長【鈴木隆昭君】 3番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 3番、小野協次議員のご質問にお答えいたします。

まず、令和8年度のふるさと納税に係る歳入予算額についてですが、昨年度は寄附件数2,081件、4,327万円余の寄附をいただき、本年度におきましても2月26日現在で寄附件数5,194件、8,500万円余の寄附をいただいているところです。本年度の増額の大きな要因といたしましては、制度改正により、ポータルサイトのポイント還元が9月末で完全廃止となることによる駆け込み寄附が増加したことによるものと捉えております。これは、全国的に見ましても一時的な寄附の増額の要因と言われております。

来年度予算を編成する上で、令和7年度当初予算や実績を踏まえた中で、確実な寄附額を想定したものです。事業実施に当たり、早々に、当初予算をクリアして補正予算をお願いする勢いで取組を進めてまいります。

次に、財政調整基金についてですが、一般的に財政調整基金の残高は標準財政規模の10%程度が目安とされております。本村の令和6年度の標準財政規模は24億5,689万円となっており、その10%の2億4,569万円が目安とされておりますが、本村では標準財政規模の20%の4億9,138万円を確保しているところです。また、中長期財政見通しによる財源不足対応分としては6億6,933万円を見込んでおりますが、村の事業計画、財政運営には影響がないものと考えております。

なお、議員ご指摘の令和5年度からの財政調整基金の減少については、災害復興特別交付金の返還や株式会社陸中たのはたへの長期貸付金に伴う取崩しとなっており、計画的に積み立てていた基金を取り崩したものとなっております。今後におきましても、持続可能な村政運営を図るためにも、堅実な行財政運営に努めてまいります。

次に、新庁舎建設の整備手法についてですが、12月定例会でもお答えいたしましたとおり、今後基本計画等の中で比較検討し、他自治体の事例なども参考にしながら、工期やコストなど、本村の新庁舎建設に最も適した方法を取り入れるという考えに変わりはありませんので、ご理解

を賜りたいと存じます。

次に、小学校の役場庁舎への改修についてですが、奈良県下北山村の小学校の改修については、遊休施設を活用した事例と認識しております。私といたしましては、現段階では役場庁舎の安全性確保のために、教育環境を再編するという考えはございません。

これから児童生徒の数が減少していく流れの中では、複式学級になると教室が空いていくという考えもあるとは思いますが、小学校に複式学級が編制されるのは、早くても令和12年以降と捉えており、さらに小学校児童や教職員を中学校の建物で吸収できるようになるまでには、さらに多くの時間を要するものと見込まれております。

一方で、現在の庁舎は耐震性の問題があり、早急な対策が必要となっております。現在の状況下で、仮に校舎等の再編を計画した場合には、中学校の大規模改修が必要となり、仮設校舎などによる生徒への負担のほか、小学校の役場庁舎への改修と併せて、かえって多額の事業費がかかることも想定されます。

このような状況を踏まえますと、私といたしましては、新庁舎建設審議会で答申を受け、村として方針決定したアズビィ周辺エリアにできるだけ速やかに新庁舎を建設し、来庁する村民や職員の安全をしっかりと守り、併せて既存の教育委員会施設との連携による効率的な施設の管理運営、商店等が集中する村中心部の立地を生かしたにぎわいの創出などを進めてまいりたいと考えております。

次に、物価高騰支援交付金等の執行状況についてですが、1回目の地域商品券発行事業の各世帯への配布率は、現時点で99%を超えております。また、第1次産業の支援交付金は、予算額に対する交付決定額の割合では、農業物価高騰対策支援交付金が23%、粗飼料高騰対策支援交付金が72%、林業物価高騰対策支援交付金が89%、水産業物価高騰対策支援交付金が91%となっております。引き続き早急な交付を行うべく、交付事務を進めてまいります。

次に、第三セクター光熱水費高騰対策支援補助金の執行状況及び第三セクターの現在の経営状況についてですが、第三セクター光熱水費高騰対策支援補助金は、2月中に執行を完了したところです。

次に、第三セクター各社の経営状況についてですが、8番議員、2番議員への答弁と同様となりますが、陸中たのはたにつきましては宿泊事業と観光船事業ともに厳しい状況となっておりますが、営業努力と経営改善に継続して取り組んでまいります。

産業開発公社につきましては、令和7年度は収支均衡を見込んでいるとのことですが、依然厳しい経営状況と伺っております。7年度の現時点の販売額は、前年比106%と伸びており、8年度は増収増益を目指し、生産力の強化を図り、その上でさらなる営業努力を進めると伺っております。

サンマッシュ田野畑につきましては、品種切替えの途上にあり、生産目標を果たせず、本年度

もマイナスの決算見込みと伺っております。品種切替えの完遂及び管理体制の見直しなどにより、計画収量を達成し、令和8年度の黒字転換を図る方針と伺っております。

甘竹田野畑の方は、令和9年度の増産に向けた施設整備等を進めていることから、7年度及び8年度決算はマイナスの決算になる見込みとのことです。引き続き増産計画に基づき、施設及び体制の整備を進めていく方針と伺っております。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 まず、自主財源の確保と将来世代に不安を与えないような予算執行の件で、寄附額の件で補充質問いたします。

村長の答えの中で、まずポータルサイトの還元が9月末で完全廃止されることによる駆け込みが増加したと。それは、ちょっと何か消極的な歳入な感じ。だから、6,750万円という金額を当初予算案に入れるよというふうに聞こえましたが、ただ下のほうで早々に予算をクリアして補正予算をお願いする勢いで取り組みますとあります。2つの矛盾ではないのでしょうかけれども、2つのお気持ち、心配な部分と、それを乗り越えてやろうという気持ちがあるのかなと思っていました。まず、7年度、関係機関の努力でこのような金額が、何年か前から比べればすごく金額が増えているところに、まず感謝したいと思います。

そこで、村長、もう一度、これは下のほうの気持ち、早々に当初予算をクリアして補正予算をお願いする勢いで取り組みというのが強いですね、当然。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 今年度の増額となった要因は、9月の駆け込み需要がやっぱり多かったというのは、これは全国的な傾向でございます。それが例年よりは増額になったという要因でございますので、来年度の歳入については、ちょっと手堅く見積もったということでございます。答弁もしましたが、やっぱり当初予算、早々にクリアして補正予算をお願いするような勢いで、また職員とも一緒に頑張っていきたいと思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ありがとうございます。そういう気持ちで取組をお願いしたいなと思います。

そのほかで、ちょっと下のほうの6年度、7年度と、生ウニが返礼品のトップになっております。そして、甘竹関連の商品が増えていますが、生ウニは分かるような気がするのですが、その状況について、ちょっと担当課のほうで説明できれば説明してもらいたいのです。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

まず、返礼品、昨年度と今年度、1位になったものが生ウニということですがけれども、ご寄附が伸びていっている、こちらの分析といいますか、考えておりますのは、やはり同じウニの返礼

品でも、家族構成に合ったようなグラム数とか、グラムが多ければご寄附いただけるというわけでもございませんし、1人とか2人家族用の少ないグラム数で返礼品を出すとか、そういった幅広く選んでもらえるような設定をしたというところが、こちらが想定したよりも寄附いただいた要因かなというふうになっております。

同じように、昨年度より甘竹関連の返礼品が結構伸びておりますけれども、こちらにつきましても甘竹側と協議いたしまして、今までですと5人前後用の鍋のセットとか、そういう商品とかを返礼品で出していたのですが、先ほどのウニと同じように、ちょっと少ない世帯用の返礼品とか、あと甘竹で取っている商品、今まで出していなかった商品を新たに出したりとか、そういった取組をした結果、このような感じで伸びてきたというところが実態といたしますか、伸びてきた要因だというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ありがとうございます。本当に今の時代の核家族化に対して、上手に勤めたのがそういう成功になっているのかなと感じて、8年度も先ほど村長が言ったように、早急に当初予算をクリアするというのもあるのかなと感じて、心強い気持ちになりました。

その中で、公社製品のほうでも、私は飲むヨーグルトとか、そういう部分、すごくどこにも負けない日本一の飲むヨーグルトなのかなと感じているのですが、そういうセット物とか、何か他社との、小さいものの、甘竹とのセットとかという部分とかで、ただ公社は公社、甘竹なら甘竹、番屋の塩なら塩という感じで、今もそんな感じでやっているのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

ふるさと納税の公社関連の製品ですが、こちらにつきましては先ほど来の答弁と同じでして、同じ牛乳を出すにも、例えば3か月の定期便というものをつくってみたりとか、1リットル1本の返礼品というものをつくってみたりとか、そういった工夫も昨年度から行っております。そのことによって、公社の返礼品につきましては、全て見たわけではないのですが、どちらかというとリピーターが多い感じを受けております。村内業者とのセット商品につきましては、検討していないこともなく、どれとどれを選んでもらって組み合わせたらさらに選んでもらえるのかなというような話合いといたしますか、協議は内部で行っております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ありがとうございます。8年度は1億円という数字が見えれば、村民の皆様も大変びっくりというか、力強い流れなのかなと感じております。

次に行きたいと思います。財政調整基金については、田野畑のほうは先人の努力で比率がいいというところのようです。中期財政見通しの財源不足対応分として、6億円を見込んでいますが、これは今のままの事業とかを推移していけば、このぐらい足りないよという意味と捉

えればいいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 お答えいたします。

今の事業とかを続けていった場合になると思いますけれども、今見込まれる財源不足、将来、令和11年度から15年度までに7億円弱ぐらい足りなくなるのではないかなというような試算をしております。そういったことになったとしても、その分を財調に対応できるように確保しておりますよというような意味でございます。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ありがとうございます。

ですから、自主財源がやはり重要だなというのは、ここで見えてくると思います。

あと、陸中たのはたとか公社に多分貸しているのもこの基金だと思うので、何とかみんなで知恵を出し合いながら、そういうふうにプラス、いい方向になるようになっていけばいいと感じておりますので、みんなで頑張っていきましょうというのが要望です。

次に行きます。新庁舎建設について、財政との影響もあるのですが、整備手法等、いろいろ早く村民の中で知りたいという部分があると思うのです。その中で、基本計画の策定、私も勉強不足だと思うのですが、2か所、高校前跡地とアズビィ周辺の部分で基本計画を策定して、どちらがいいかを村民の方が審議会等で選んでもらうために2,900万円という金額がかかると、当時議決したときに、私はそう思っていたのですが、基本計画の策定は1か所と理解してよろしいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 お答えいたします。

基本計画の策定は、1か所で想定しております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ということは、2,900万円以下で進むということにはならないのですよね。

○議長【鈴木隆昭君】 総務課長。

○総務課長【大森 泉君】 基本計画の委託料のことだと思うのですが、予算額が1,900万円で、入札を執行しまして、変更契約等もしたのですけれども、これが1,200万円ぐらいに落ちる見込みでございます。それで完結させようというようなことでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 分かりました。

その中で、村民の中に、いろんな人と話ししたときに、小学校を役場に改修すればいいという話がどうしても出るのです、懇親会の席とか。何でこんなに人口減っていくのに、そういうことを、新庁舎建てなくてもいいのだとかという話になるのですが、そこで、私はそのときに思った

のは、村長は先ほどの答弁でも、多額の事業費がそれでもかかるよというところで、前の答弁でもあったので、ちょっと全国で事例がないのかなと思って調べたら、奈良県の下北山村で旧下北山小学校を役場に改修した事例があって、それが8億3,000万円かかっていると。それなりにやっぱりお金はかかるのだなというところを感じたのでこの質問をしましたので、きちんと村民にどちらに行ってもお金はかかるのだけれども、新しい庁舎を建てて村民の利便、あと将来的な小学校の遊休というか、空いた教室はどう使っていくかというのをやっぱり村民に丁寧これから説明していかなければならないと思いますが、それについては、今日教育長等もいけませんので、次回にしたいと思いますので、質問のほうは終わって、次のほうに、産業振興のほうに行きます。

令和8年第1回臨時会で議決した物価高騰対策なのですが、この答弁のほうで、農業物価高の交付金のほうが23%と、ちょっと他の部分に比べて少ないのですが、これは何か理由があるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐々木賢司君】 1次産業の物価高騰関係の交付金の執行状況についてご説明いたします。

今回の交付金、こういった形で交付するかということはそれぞれ別でございまして、例えば水産業ですと漁協さんのほうに交付の事務をお手伝いお願いしている関係がございまして、交付は非常に早く進んでございます。農業の関係、こちらは2月の広報、3月1日号と2回募集といたしますか、こういった制度あるというご案内をしているところですが、それぞれ各農家さんからご申請をいただくという必要がございまして、その関係で執行のスピードが少しほかの交付金より遅くなっているというところでございます。お問合せいただいた場合に、丁寧にご説明して、引き続きできるだけ早く交付するように努めてまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それで、第三セクターのほうに行きますが、第三セクターの補助金のほうですが2月中に執行を完了したというところのようで、第三セクター各社の経営状況で8番議員、2番議員への答弁と同様ということでありましたが、8番議員の質問に対して、ナンバー4の陸中たのはたの管理運営についてですが、宿泊事業について今年度1月末時点、営業利益が270万円、観光船事業が580万円とありますが、これで雑収入としてこの物価高騰対策が入れば、今年度何とか黒字決算になるような感じになるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

これは途中経過でありますので、概算のマイナスということにはなっておりますが、おっしゃるとおりこれは1月末時点の数字でございまして、支払いが完了したのは2月末です。その1か

月のうちに、営業のほうと、あとこのマイナスの部分がプラスにどう転じたかというのは、ちょっとまだ精査できてはおりませんが、計算上でいくとそういうふうなプラマイになってくるかなと思ってはおります。ただ、まだ途中でございますので。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 私は、前の議会のときにも、観光船事業については、やはりもう島越の風景になっているのかなというところで、村としても何とか守る方向でというところで、何かいい方法をみんなで考えていけばいいのではないかと質問しております。そこで、8年の当初予算でそういう部分があることはしょうがないのかなと感じておりますが、先ほどの自主財源の確保という意味で、そういう部分で自主財源の確保がすごく重要なのかなと感じております。例えば補正のほうで、途中途中で経営状況をみんなで聞きながら、補助金のほうで少しずつ出していくということは考えられないでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

例えばですけれども、年度の会計で言うと、収支は最後合う形にはなりますけれども、事業をやっていく上でとか、全体のキャッシュと考えれば、今でもやはり単年度黒字になってはいるものの、その時々でキャッシュが足りない、現金が足りないという状況は常に付きまとうものでありまして、この閑散期をどう乗り越えるかということもありますし、年度の当初、あとは年度の末のほうになってくれば、やはり厳しくはなってくるので、おっしゃるようなことも考えてみたのですが、現金があって回していくということが、やっぱり最初お金があったほうが理想なのかなということも考えておりましたので、そういった補助金というふうな形になっております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 それを踏まえて、ふるさと納税とか、そういう部分に羅賀荘の宿泊とかありますよね。それ何件かやっぱりありますか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

おっしゃるとおり、ふるさと納税の返礼品に羅賀荘の宿泊という商品もございます。あと、羅賀荘とロレオールのセットになった商品もございます。ちょっと具体的な数字は持ってきておりませんが、見た感じだと伸びてはきているというふうに捉えております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 そこに、プラスクラファンとか、そういう観光船事業を応援しようというような名前で寄附を募るという部分とかは、考えられるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室長。

○特定政策推進室長【菊地正次君】 お答えいたします。

たしか今年度だったと思うのですが、返礼品なしで、田野畑村を応援してもらいたいというような商品も今出しております。少ないですが、数件は入っております。そういった形で、観光船に特化した商品というものもできなくはないというふうには考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 そういう部分を頑張っているよというところを見て、役場も頑張っているよと、羅賀荘のほうも頑張っているというのがあればいいのかなと感じておりますので、これは要望ですので、頑張ってもらいたいと思います。ただ、今までは頑張っていないという意味ではございませんので。

公社なのですが、同じ質問ですが、厳しいということだったので、2月に執行して、経営的な部分は、理事長、どのように感じていますか。

○議長【鈴木隆昭君】 工藤副村長。

○副村長【工藤光幸君】 公社の経営状態ということで、議員ご指摘のとおり、今日のほかの議員のご質問にもありましたが、貸付金について、猶予ということで村に要望書を出していただいたということで、これは12月時点で理事会を開催いたしまして、そのときの経営状況、今年のそれまでの見通し等を踏まえて、どうしても厳しいということで提出させていただいたものでございます。通常の営業活動で進めていきますと、今申し上げましたとおり、今年度も厳しい。こちらでは、収支均衡を見込んでいたというふうに答弁をさせていただいているところですが、今回の物価高騰に対する村からの補助金ということで、その部分が幾分緩和されて、先ほど陸中たのはたの答弁のほうにもありましたが、資金的な部分で若干気持ち的に余裕が出て、おかげさまで余裕が出たなという状態でございます。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 そこで、思惟インターの開通によって、私は道の駅での公社の製品、甘竹の製品も増えていると聞いておりますが、すごくそういう部分期待しております。多分そうだと思うのですが、スーパーとかに出すよりは道の駅とかでいっぱい売れたほうが利益率は当然いいですね。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまのご質問にお答えいたします。

利益率という点から考えますと、内陸、そして県外に出すより、配送料、コストがかからない分だけ利益率が確保できます。その点、さらに道の駅から要望いただきますと、その日のうちに配送することも可能ですので、多く売っていただければ、より公社にとってはメリットがございました。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 私は、道の駅の理事でもないのに、なかなか聞くことができないで、私はソフトクリームの量が今年はすごく期待できるのかなと感じております。あと、乳製品、飲むヨーグルトとか、簡単に飲みながら運転して帰るとかという部分ですごく期待しております。なので、公社の営業、売上げに対してすごく道の駅等が、今度のインターが力になるのかなと感じておりますが、ソフトクリームのほうのミックスが多くなれば、公社にとっては、今まではその内容について私もちょっと把握していなかったのですが、ソフトクリームのミックスの量が出れば、やはり公社の経営としても当然かなりいいですね。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまのご質問にお答えいたします。

ソフトミックスに関しましてですけれども、令和7年度は前年度よりも大幅に出荷が増えておりまして、昨年暑かったということもあると思われるのですけれども、令和8年度はインターが開通したということで、より出荷が見込めるのかなというふうに思っております。やはり一度に作る生産量が多ければ、その分だけ利幅が取れますので、多くのご注文をいただけるように、そして注文をいただきましたらばすぐに出荷したいと思います。

あと、飲むヨーグルトというお話、先ほどいただきましたけれども、飲むヨーグルトの出荷も500ミリを中心に伸びておりますので、道の駅でも同じように出荷数が伸びることを期待しております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 ぜひそういう部分、明るい気持ちで、従業員の皆さんとか経営の人たちが、やっぱり前年比マイナスになると気持ちが沈んでくると思うので、何とか理事長、プラス、プラスで8年度は行ってほしいなと思っております。

そこで、シェークという話が道の駅のほうから聞こえてきて、ソフトクリームプラス、道の駅のほうでソフトクリームの機械を1台昨年だったか買って、今年は公社の飲むヨーグルトを利用したシェークを作って、4月の周年祭で発売開始したというところなので、多分平日も台数増えている中で訴求効果がすごくあると思うのです。そこに簡単な、今度Instagramのやつで北山崎とか、すごくきれいな画像とか送れて、そういうところを利用してとか、山の酪農とか、いろいろな部分あるみたいなので、そういう部分を使って訴求していくパターンをつくれば、道の駅に来るお客様が、例えば1,000円使うのが1,500円になるとかというふうに変わっていくのかなと感じているのですが、そういう部分は話合いを行っているのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 特定政策推進室、畑山主幹。

○特定政策推進室主幹【畑山 譲君】 ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、先ほど道の駅で新しい商品、シェークというお話をいただきましたけれども、そういった問合せをいただいております、見積りを精査しているところでございます。ぜひ道の駅で活

用いただきたいというふうに思っております。

また、関連して道の駅以外での販売、もしくはSNS等で取り上げられるような、そういった取組についても、公社のほうで道の駅にご協力できたらよろしいかなというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 3番、小野協次君。

○3番【小野協次君】 では、これは要望になりますが、最後はこういう今の答弁にあるような、いろいろ第三セクター等、これは自分自身、いろんな農林漁業者もそうですし、みんな経営状況大変だと思うので、そこを乗り越えるためにみんな苦勞してやっているの、努力して、8年は何とか明るい年であればいいのかなという部分で、最後の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長【鈴木隆昭君】 これで3番議員の質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長【鈴木隆昭君】 以上で本日の議事日程は終了いたしました。

本日はこれで散会といたします。

(午後 1時56分)